

編集後記

<編集顧問>

鈴木 秋悦
武田 佳彦
青野 敏博

<編集委員>

岡井 崇
神崎 秀陽
倉智 博久

AOFOG

今年はAOFOG（アジアオセアニア産婦人科連合）発足の50周年に当たり、その記念大会が今東京の京王プラザホテルで行われています。私も、機関誌であるJOGRの編集長として、会期中に持たれたいくつかのビジネスミーティングに出席してきました。最初は英語で話すことのストレスに加え、議事の進行のあまりもの遅さに苛立ちを募らせていたのですが、回を重ねるにつれ、この連合の存在意義への認識が深まってきました。

AOFOGには多くの発展途上国が加盟しています。妊産婦死亡率も周産期死亡率も日本の百倍近い国が少なくありません。それらの国の産婦人科医療の向上のために医師たちを支援し教育することが連合に課せられた義務なのです。その取り組みの1つで評判のよいのがYGAと呼ばれる一種の報奨制度です。それは、各国の幹部が推薦した若手医師を学会が無料で招待して勉強の機会を与える制度で、故水野正彦東大教授の提唱で始まり、20年以上も継続されていると聞きます。記念すべき今大会では2つの大きな事業の開始が決定されました。100万ドルを目標とした教育基金の設立とunsafe abortionを防ぐためのプログラムの宣言です。このような事業の推進こそがAOFOGの本来の活動であることはいうまでもなく、感心すること頻りです。

それにつけても、儀式が多いのと途上国の代表役員の女性医師が身に付けている宝石の大きさが気に掛かるのですが……。

(岡井 崇)